中学校と高等学校をつなぐ授業の実践
-『平家物語』と『日本外史』の比較読みを通して-

旭川市立永山中学校
教諭　奥山　晃

1　実践の背景

①配当時間の少なさ

②学習意義の感じにくさ

①配当時間の少なさ

教科書（光村図書）では・・・

・1年→故事成語

・2年→漢詩

・3年→論語　　を学習

①配当時間の少なさ

教科書（光村図書）では・・・

・1年→2時間

・2年→3時間

・3年→2時間　を想定

①配当時間の少なさ

- 十分な知識の定着がなされるか？
- 漢文が、単なる漢字の羅列に見えはしないか？

②学習意義の感じにくさ

（中）第１学年	（中）第２学年	（中）第３学年
(3)　我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
ア　音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しむこと。	ア　作品の特徴を生かして朗読するなどして，古典の世界に親しむこと。	ア　歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して，その世界に親しむこと。
イ　古典には様々な種類の作品があることを知ること。	イ　現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して，古典に表れたものの見方や考え方を知ること。	イ　長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。

「中学校学習指導要領」 知識及び技能 （3）我が国の言語文化に関する事項

②学習意義の感じにくさ

親しむための方策

・故事成語→体験文を書こう

・漢詩→作者の心情に迫ろう

・論語→孔子の教えに共感する部分を書こう

②学習意義の感じにくさ

親しませようとはしているものの、
「普遍性」以外の、目新しさがないようにも…
道徳科の内容とも重なってきている…
↓
漢文学習への抵抗感につながっていないか

高等学校の漢文学習への橋渡しとしての授業を展開できないだろうか？

2　教材について

高校用教科書『言語文化』所収
頼山陽『日本外史』

10

【参考】 那須与一

頃は二月十八日の西の刻ばかりのことなるに、折節北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は揺り上げ揺りす急漂へば、扇も串に定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも、晴れならずといふことぞなき。〔中略〕与一、鏑を取つてつがひ、よつ引いてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏。弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要際一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。鏑は海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日の輝いたるに、皆紅の扇の日出だしたるが、白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られければ、沖には平家、舟端をたたいて感じたり。陸には源氏、鼎をたたいてどよめきけり。

〔平家物語〕

〔巻十一〕

1 二月十八日　旧暦。新暦三月二十日頃。
2 西の刻　午後六時頃。
3 くつばみ　轡。手綱をつけるため、馬の口にかませる金具。「くつばみを並べる」で、馬が並ぶさまを表す慣用句。
4 鏑　「鏑矢」のこと。矢の先に二股の鏑を付けた鏑を付けた矢。射ると、鏑にあいた穴から大きな音が鳴り響く。
5 十二束三伏　「束」「伏」は、矢の長さの単位。一束は、握拳を除いた指四本の幅。一伏は一束一本の幅。標準的な矢の長さは十二束三伏。約一メートル。
6 すぢ　長さの単位。三センチ。
7 ひいふつと　矢が扇を切る音。「ひふつと」は、擬音語。
8 鼎　矢をいれて持ち運ぶ武具。

日本外史　頼山陽著。二十二巻。一八二七年頃成立。平氏・源氏から徳川まで十二の武家の歴史を記す。史実に沿りあるが広く読まれた。

頼山陽　一七八〇～一八三二年。江戸時代の儒学者・歴史家。安芸国（現在の広島県）の人。名は襄。山陽は号。優れた漢詩文を残した。

平家物語　九六ページ参照。

那須宗高

頼山陽

日既晡、敵以二一舟載美姫一挿扇于竿、植之舳去陸五十歩、麾而請射義経曰、誰命中之者、衆薦二下野人那須宗高一。義経召而命之、宗高騎而独出、両軍注視、宗高一発、断扇、觳扇飄而堕、両軍大呼。

〔日本外史〕

1 晡　日暮れ。
2 舳　ここは、まっすぐに立てる竿。
3 歩　長さの単位。二歩分の長さ。六尺。一歩は、約一八〇センチメートル。
4 義経　源義経。一一五九～一八九年。兄・頼朝の挙兵に応じて平家との合戦で大功を立てるが、後に不和となり、陸奥国平泉で自刃した。
5 下野　現在の栃木県。一説。
6 那須宗高　生没年未詳。源氏の武将で弓の名手。「与市」ともよばれる。
7 扇觳　「觳」は、本来車輪の軸を受ける部分。「扇觳」で、扇のかなめ。
8 大呼　大声を上げて鬨をあげる。

奈良 710 平安 794 鎌倉 1185 南北朝 1333 室町 1467 戦国 1603 江戸 1868 明治

第10章　武勇に表れる人間のあり方【史伝を読む】……174

2　教材について

・漢文への抵抗感軽減への期待

①高校進学前に基礎知識の復習

②那須与一の予備知識があり、
　親しみやすい

③学びを自身の作文に生かせる

3　授業について

【日時】
　2月20日(火)～21日(水)
【対象】
　3年3組　38名(男:19名　女:20名)
　3年4組　39名(男:19名　女:20名)
【特色】
　落ち着いた雰囲気で授業に取り組み、よい発言をする生徒が多いが、知識の定着が不足。学力は中の下。市内でも下位に属していた。

３　授業について

【ねらい】

那須与一について書かれた古文と漢文の比較読みを通して、漢文の記述の特徴を捉え、今後の作文に生かす。

３　授業について

【発問の工夫】

①交互に音読した印象は？

②歴史の教科書としてはどうか？

③文章を書くときに大切なこととは？

①交互に音読した印象『平家物語』

(ア)『平家物語』(古文)について
・漢文に比べて、情報が多いため、当時の情景が想像しやすい
・与一を中心に物語が続んでいる

(ア)『平家物語』(古文)について
・長い
・話すことばに近い
・様子が細かい
・与一メイン

(ア)『平家物語』(古文)について。名前が違う。
。長い(平仮名が多いから?)。与一メイン
。少し意味が分かる。
。想像しやすい(内容が深いから)
。詳しく書かれている。。情景描写が多い。

(ア)『平家物語』(古文)について
・何が起こったのか、だけではなく、どのように起こったのか、そしてそれを受けての周りの様子も細かく描写されている。⊙与一がメイン

(ア)『平家物語』(古文)について
・細かな日時やその時の海の様子、両軍の様子がしっかりかかれている。・扇が落ちるまでの様子に情景描写がたくさんあって想像しやすい。
与一の心情

(ア)『平家物語』(古文)について
日本らしいが、内容にいくまでの文が長い。だが、漢文より、分かりやすく読みやすい。与一の心情。扇の様子、海の様子など。

(ア)『平家物語』(古文)について
情景が詳しく書かれている。与一の心も書かれている。
時間だったり射た後の扇の様子だったり
凝縮だったり

15

①交互に音読した印象

『平家物語』
・情報量が多い。平仮名が多いから？
・与一の話が中心に据えられている。
・与一の心情、扇や海の様子などが分かりやすい。
・時間、射った後の扇の様子、擬音を交えて、情景を詳しく書いている。
・「何が起こったのか」だけではなく、「どのように起こったのか」、そして、それを受けての周りの様子も細かく描写されている。

①交互に音読した印象『日本外史』

(イ)『日本外史』(漢文)について
義経と与一がメインとなって書かれている。重要な所だけ
起きたことを書いているだけ。日常的に使われなくなった漢字がある。

(イ)『日本外史』(漢文)について 起きたことを述べているだけ。情景が全く
書かれていない。なじみのない漢字

(イ)『日本外史』(漢文)について
中国など他国から来たから、日本らしい擬音(ひいひ、とぞ、よっぴいて…)がなく
想像するには少し物足りない感じがする。淡々としている。

(イ)『日本外史』(漢文)について
・古文に比べて文が短い・使う言葉が違う・漢字が多い 義経も書かれている
・古文よりもくわしく書かれていなくて、だいたいのことが書かれている(重要なところ)

(イ)『日本外史』(漢文)について
・事実のみ簡潔にかかれている。扇を射ることへの緊張や
大変さが伝わらない。
・なじみのない漢字

(イ)『日本外史』(漢文)について
何が起こったのか、が簡潔にまとめられている。
・なじみのない漢字 ①与(&義経メイン)

17

①交互に音読した印象

『日本外史』
・なじみのない漢字が多く、理解しづらい。
・日本らしい擬音（ひいふつ・よつぴいて）がなく、想像するには物足りない感じがする。
・扇を射ることへの緊張や、大変さが伝わってこない。
・起きたことを述べている。情景描写がない。
・重要なことだけを述べている。
・義経と与一が中心に描かれている。

②歴史教科書としては？

19

③ ②の理由を、選んでないものとの違いを明らかにして書こう。

・「イ」は重要な部分だけ、えがかれているため、ムダな情報がなくていいと思ったから。また、わかりやすく書きすぎないため、読み手が想像でおぎなって考えが広がると思ったから「ア」より勉強になると思う

・「ア」の良いところもたくさんあっていいと思った。例えば、わかりやすいから子、小学生とかに見せるのであれば絶対「ア」のほうがいいし、たくさんある情報の中から大事な部分を探すのも勉強になると思ったから。

+「イ」のほうがオリジナル
+「ア」は1説ほい

③ ②の理由を、選んでないものとの違いを明らかにして書こう。

・イは出来事のみを簡潔にまとめているから。アは歴史の教科書にしては細かすぎるし、心情や対句、ぎ音語色の対比などで鮮やかにかかれていて、国語の教科書に近いと思う。

・読み手の考えが広がる。
・歴史のことだけわかる

③ ②の理由を、選んでないものとの違いを明らかにして書こう。

漢文の方が重要なこと(大きなこと)だけ書かれていて、かんけつにまとまっている。古文だと、詳しく書かれているから、国語よりの表現が多い。歴史の教科書に載せるなら、歴史のことがわかればいいと思う。

③ ②の理由を、選んでないものとの違いを明らかにして書こう。

(ア)だと情景描写が多すぎて結局何が教えたいのかがわからない。内容を確実に教えたいのであれば(イ)の方が的確だと思う。ただ、絵本や読みきかせで教えるのなら(ア)の方が楽しく学べるし、分かりやすいと思う。

③ ②の理由を、選んでないものとの違いを明らかにして書こう。

平家物語と比べて日本外史は簡潔に書かれているから。歴史を覚える上でストーリーで覚えるということは効果が高いが、教科書はあくまで「覚えなければいけないことを伝える」ための手段にすぎない。詳しく書かれすぎると情もとってしまうし、何が重要であるか読み手に判断をさせなければならないから。

③ ②の理由を、選んでないものとの違いを明らかにして書こう。

・教科書は出来事や人物について学ぶためのものだから、心情が描かれすぎているのは必説としては面白いけど、教科書っぽくはない。

・歴史を学ぶなら、一人の視点からではなく、複数人の視点から学んだ方がより正しい知識や見解を得られると思うから。

②歴史教科書としては？

【大多数が『日本外史』を選択】

・内容が簡潔で、流れをつかみやすい。
・歴史だったら、出来事について分かればよい。
・『平家物語』だと、情景描写が多すぎて、結局何が教えたいのかがわかりにくい。
・内容を確実に教えたいならば、『日本外史』であるべき。

②歴史教科書としては？

【大多数が『日本外史』を選択】

・歴史を覚える上で、ストーリーで覚えることは効果が高いが、教科書はあくまで「覚えなければいけないことを伝える」ために手段。詳しく書かれすぎると、紙幅も取るし、何が重要かの判断も読み手に委ねなければならない。

・『平家物語』はわかりやすいからこそ、小学生に見せる場合は有効だし、たくさんある情報から大事な部分を探すのも有効だと思った。

③文章を書くときに大切なことは？

◎この学習を通して、文章を書くときに大切なことはどんなことだと考えますか？

・場面に応じて伝える情報や伝えかたを工夫することが大切だと思います。出来事や情景、どちらをメインとするのか、や、タメロで良いのか、敬語の方が良いのかなどを選ぶことです。ただ、教科書を読んでいてもあまり内容を覚えられないので、小説風教科書はあったらなと思います。…ただ、小説風教科書は伝記な気がしなくもないですが、私は伝記で歴史を覚えられたことがないから、覚えるのは難しいなと思いました。

・文章を書く目的や場面に応じて、事実のみ簡潔に書くのか、表現技法を用いたりして情景や心情を細かく描写するのか書きわけることが大切。

・わかりやすく、より面白くするために会話文を加えたり、読む人の理解が深まるようにくわしく書く。

・言葉の使いかた、情報量が多すぎないようにする

「目的に応じて」書くこと。物語や小説などは周りの情景や人物の心情を詳しく書くなど、どこを切り抜いて詳しくするのか、どう表現するのかを考えて書くこと。また相手にも伝わりやすいように工夫をしていくことも大切だと思いました。

自分が何について説明したいのか、それを明確にして描くことが大切だと思う。

22

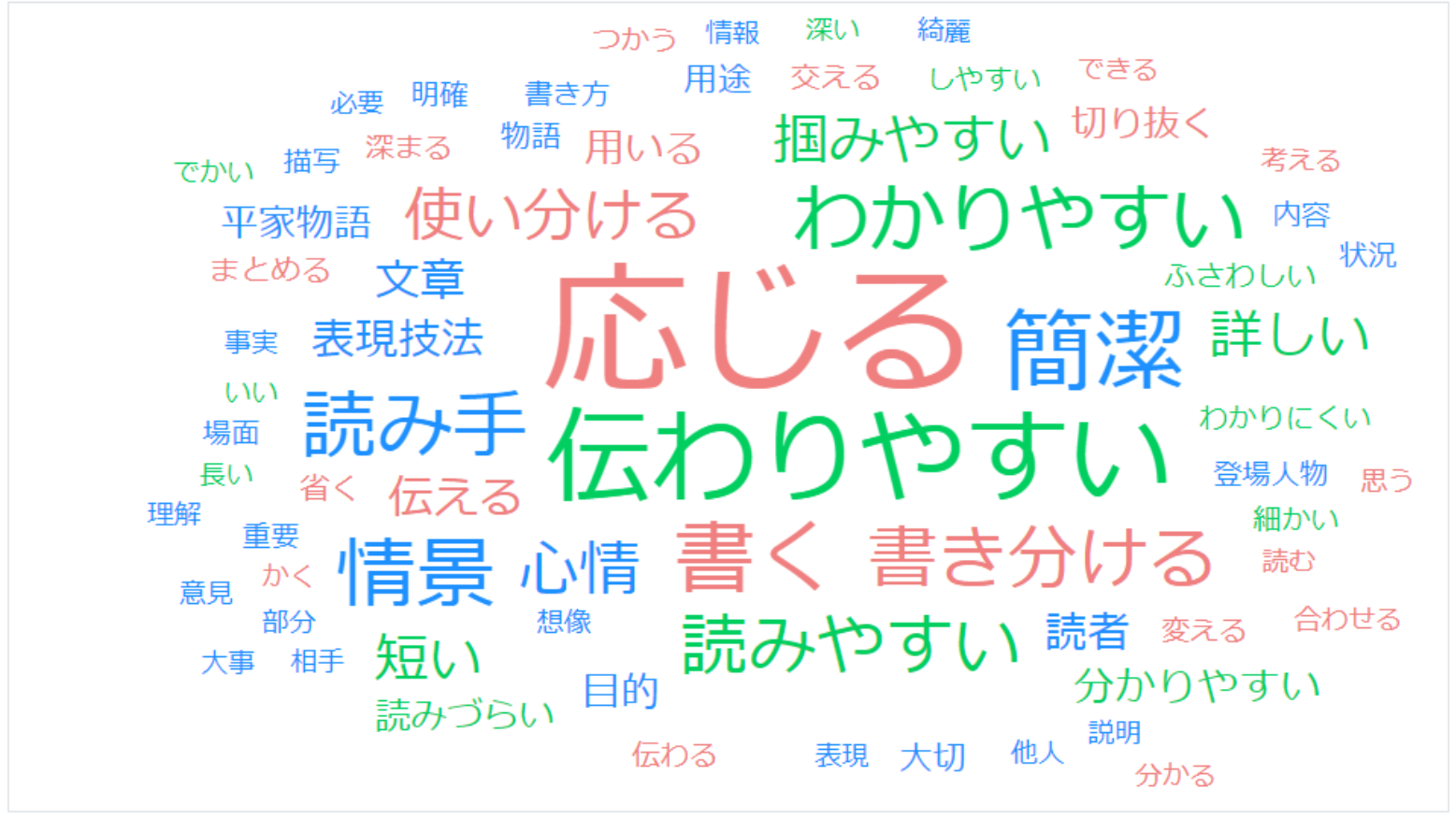
③文章を書くときに大切なこと

・長く書くことが必ずしも大切ではない。
・自分が何について説明したいのかを明確すること。
・「誰が読むか」、「どのようなことを伝えたいのか」などで、内容を吟味すること。
・心情を入れることで興味をもたせることもできる。
・読者に面白いと思わせたいならば、会話文や情景描写をたくさん入れるとよい。

③文章を書くときに大切なこと

・読者に覚えてもらいたいなら、重要なところだけを書く。
・詳しく、自分だけの視点だけではなく、第三者の視点を入れることも時には必要。
・事実のみを簡潔に書くのか、表現技法を用いたりして、情景や心情を細かく描写するのか、書き分けることが大切。

Webサイトによるテキストマイニングの結果



→相手意識をもって作文する意識が高まった

26

修辞学のライティングに関する部門のなかに「三文体」と呼ばれる理論があります。これは文体を3種類に分ける考え方です。簡潔な文体、格調高い文体、その中間の文体の3つです。それぞれ順に、平淡体や簡素体、崇高体や荘重体、中庸体や華文体などと呼ばれます。修辞学では、この3つを適切に使い分ける方法が論じられます。

たとえば教科書や論文で美辞麗句が並べたてられていたら、理解の妨げになってしまいます。人に何かを教えたり証明したりすることが目的の文章には、明瞭で簡潔な平淡体を選びます。

反対に、壮大な英雄物語や、厳粛な雰囲気のセレモニーでのスピーチなどには、重々しい調子が合います。凝った詩的な言い回しをふんだんに使うくらいでちょうどよいでしょう。読み手や聞き手の心を揺さぶり、強く惹き込ませることが目的の文章には、崇高体が合います。

このどちらでもなく、読み手や聞き手を楽しませながら何かを伝えたいときには、中間の文体にします。無味乾燥にも仰々しくもならないように、やりすぎない程度に比喩表現などを織り交ぜるのがよいとされます（本書も中庸体で書いているつもりです）。

このように修辞学における崇高とは、文体の種類を表すために使われた言葉のひとつで

井奥陽子『近代美学入門』（筑摩書房、2013年） P213,214

まとめ

・学習を通して、「文語文も目的に応じて描かれる」明確になる。
・学習したことが、現代文にも生かされる。

↓

高等学校の漢文学習の意欲喚起につながるのではないか

ご清聴
ありがとうございました

国語科ワークシート「二つの文章の違いは？」ワークシート①　　組　氏名（　　）

A『日本外史』

【①　　文】

日既ニ晡ナリ。敵以テ一舟ヲ一載セ二美姫ヲ一挿ミテ二扇ヲ于竿ニ一、植ツ二之ヲ舳ニ一。去ルコトレ陸ヲ五十歩、麾キテ而請フレ射ンコトヲ。義経曰ハク、「誰カ命ニ一中スル之ニ一者ゾト。」衆薦ム二下野ノ人那須宗高ヲ一。義経召シテ而命ズレ之ニ。宗高騎シテ而独リ出ツ。両軍注視ス。宗高一発シテ、断ツ二扇轂ヲ一。扇翻リテ而堕ツ。両軍大イニ叫ブ。

【②　　文】

（ア　　）

日既に晡なり。

扇を竿に挿みて、之を舳に植つ。陸を去ること五十歩、麾きて射んことを請ふ。義経曰はく、「誰か之に命中する者ぞ。」と。衆下野の人那須宗高を薦む。

（イ　　）

宗高騎して独り出づ。両軍注視す。宗高一発して、扇轂を断つ。扇翻りて堕つ。両軍大いに叫ぶ。

B『平家物語』

【古文】

ころは二月十八日の酉の刻ばかりのことなるに、をりふし北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は、揺り上げ揺りする漂へば、扇もくしに定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも晴れならずといふことぞなき。与一目をふさいで、

「南無八幡大菩薩、我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは、あの扇の真ん中射させてたばせたまへ。これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向かふべからず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさば、この矢はづさせたまふな。」

と心のうちに祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

与一、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日のかかやいたるに、みな紅の扇の日出だしたるが、白波の上に漂ひ、浮きぬしづみぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

A『日本外史』

【現代語訳】

日は既に夕暮れであった。敵である平家は一そうの小舟に美しい女性を乗せ竿の先に扇を挟み、へさきにまっすぐ立てた。(小舟からは)陸から五十歩(約九十メートル)ほど、手招きして射てみろと求めている。(大将である源)義経は、「誰か命中させる者はいないか。」と言った。人々は下野の人、那須宗高を推薦した。義経は(宗高を)呼び寄せて命じた。宗高はただ一騎で進み出た。(源平の)両軍は一心に見つめた。宗高は一矢を放って、扇の要を射ぬいて断ち切った。扇はひるがえりながら(海に)落ちた。両軍の人々は(ともに)大声を上げて叫んだ。

B『平家物語』

【現代語訳】

時は二月十八日、午後六時頃のことであったが、折から北風が激しく吹いて、岸を打つ波も高かった。舟は、揺り上げられ揺り落とされ上下に漂っているので、竿頭の扇もそれにつれて揺れ動き、しばらくも静止していない。沖には平家が、海上一面に舟を並べて見物している。陸では源氏が、馬のくつわを連ねてこれを見守っている。どちらを見ても、まことに晴れがましい情景である。与一は目を閉じて、

「南無八幡大菩薩、我が故郷の神々の、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神、願わくは、あの扇の真ん中を射させたまえ。これを射損じれば、弓を折り、腹をかき切って、再び人にまみえる心はありませぬ。いま一度本国へ帰そうとおぼしめされるならば、この矢を外させたもうな。」

と念じながら、目をかっと開いて見ると、うれしや風も少し収まり、的の扇も静まって射やすくなっていた。

与一は、かぶら矢を取ってつがえ、十分に引き絞ってひょうと放った。小兵とはいいながら、矢は十二束三伏で、弓は強い、かぶら矢は、浦一帯に鳴り響くほど長いうなりを立てて、あやまたず扇の要から一寸ほど離れた所をひいふっと射切った。かぶら矢は飛んで海へ落ち、扇は空へと舞い上がった。しばしの間空に舞っていたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさっと散り落ちた。夕日に輝く白い波の上に、金の日輪を描いた真っ赤な扇が漂って、浮きつ沈みつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

国語科ワークシート「二つの文章の違いは？」ワークシート ②　　組　氏名（　　）

【課題】漢文と古文と読み比べて、その違いをまとめよう。

① 交互に音読して感じたことを書こう。

（ア）『平家物語』（古文）について

（イ）『日本外史』（漢文）について

② 歴史の教科書のように書かれているのは、（ア）と（イ）のどちらか。

③ ②の理由を、選んでないものとの違いを明らかにして書こう。

【まとめ】

【発展】

◎この学習を通して、文章を書くときに大切なことはどんなことだと考えますか？